

未来のために

長久手市立北中学校

二年 直野 姫子

これは、私が春休みに、家族でキャンプに行った時のことです。その日はちょうど、自然に優しい間伐材を使ったイベントを行われていました。売られているジュースには再利用できる木のコップが使われていて、自分たちで間伐材を削ってスプーンを作るコーナーもありました。また、スタッフの人からのアンケートも印象に残っています。「いつも買っている物をするときに、木が使われているものや持続可能なものを意識していますか。」「未来のために、このように木の使われた製品があることを知っていますか。」「このときのイベントやそこに関わるスタッフの人たちの一生懸命な姿を見て、未来のために行動している人がいることや、このスプーンによって自分も少しだけ未来に貢献できることを知りました。私は、スプーンを削りながら、今までの自分のこと、そしてこれから自分にもできる

ことについて考えてみました。

これまでの私は、今が良ければ問題ないと考えていて、未来のことはどうにかなるだろうと思っっていました。そのため、水道の水を出しっぱなしにしたり、楽だからと自動車に頼ったり、紙の無駄使いをしたり、食べ残しをしたり、という無責任な行動が日常茶飯事でした。では、その時の私には何が足りなかったのでしょうか。自分さえ良ければという自己中心的な考え。未来に対する責任の放棄。大切なことから目を背けていた自分。これまでの私に圧倒的に足りなかったのは、「想像力」だと気づいたのです。

これまでもごく身近にヒントはたくさん隠されていていました。メディアでよく目にする「SDGs」や、教科書に載っている「持続可能な社会」の文字です。SDGs、すなわち持続可能な開発目標とは、二〇一五年の国連サミットで採択されたもので、人類が地球で暮らし続けていくために二〇三〇年までに達成すべき一七の目標のことです。これらの目標を見てみると、人権に関する課題、経済や社会に関わ

る課題、そして地球環境に関する課題など、どれも私たちの日常生活に密接した内容だと分かります。特に、「二番の目標」つくる責任「つかう責任」や「四番の目標」陸の豊かさを守ろう」は、私の木のスプーンにも通じる目標です。また、近年はプラスチック使用量を減らすため、買い物へのエコバッグの持参が呼び掛けられているし、紙のストローや食料品の簡易包装が増えました。これらは一五番の目標である「海の豊かさを守ろう」にも繋がります。そう考えると、今やSDGsは私たちの生活とは切っても切れないほど重要になっているのです。しかし、めんどくさい、意味がないと考える人たちの行動が積み重なるとどうなるでしょう。地球温暖化や異常気象はもつとひどくなるかもしれません。森林破壊や砂漠化も進み、生物の住める場所が減り続けるかもしれません。少なくとも事態が良い方向へ向かないことは容易に想像がつきます。あの日、一本の木のスプーンが私に気づかせてくれたのです。後悔しても過去を変えることはできない。でも未来は変えることができ

る、と。小さな行動の一つが、未来を大きく変えるかもしれない。一人の行動はちっぽけでも、塵も積もれば山となる。世界を変えるという現実味がありませんが、世界をつくる「個人」が変わることは全ての道のりの第一歩です。だからこそ、みんなで力を合わせるべきなのです。

皆さんもぜひ、想像してみてください。このままだと地球の未来はどうなるのか。今の自分には何ができるか。それが、あなたが行動するきっかけになります。私も、節水を心がけたり、徒歩で目的地へ向かうようにしたり、食べられる分だけ配膳したり、できるところから行動を変える努力を始めました。遠い存在に思える「持続可能な社会」はとても身近な存在なのです。あなたも、私たちの未来のために、できるところから行動を変えてみませんか。